

## 令和4年度第1回沖縄県行財政改革懇話会における意見等

日時：令和4年10月24日(月) 14:00～16:00

場所：沖縄県教職員共済会館 八汐荘 1階屋良ホール

議題：1 沖縄県行政運営プログラム実績総括について  
2 新沖縄県行政運営プログラム(仮称)【素案】の検討について

出席者：沖縄県行財政改革懇話会委員 15名中14名

山中 雄次 委員	名嘉村盛和 委員	赤嶺 真也 委員
石田むつみ 委員	下郡みず恵 委員	砂川久美子 委員
石川 京美 委員	普天間朝重 委員	東盛 政行 委員
嘉陽 孝治 委員	稲田 隆司 委員	平良 斗星 委員
川越雄一郎 委員	下地イツ子 委員	

### 【主な意見等】

#### ○全般について

- ・変動の激しい時代に柔軟に対応するために、策定後にも実施項目等の追加や修正ができるような仕組みがあると良い。
- ・各実施項目の指標は4年間の固定ではなく、実績を見て変更するべき。
  - ⇒ 社会情勢の変化等に伴い、対応する項目に変化が生じる場合や、実績と目標値に乖離が生じる可能性があることを踏まえ、新たな課題や優先して取り組む事項が生じた場合など、柔軟に取組や目標値の追加・修正できることとし、効果的な取組となるよう努める。
- ・(議題1に関連し) 財政効果等の目標がないのはなぜか。
  - ⇒ 第7次行革プランまでは財政効果というものの目標を立てていたが、第8次プラン(沖縄県行政運営プログラム)からは、これまでの量の削減から質の向上に転換を行っており、財政面に関する目標値は立てず、「実績でこれだけの財政効果があった」と参考値として示しているところ。
- ・財政支出の削減だけでなく、質の方を向上させようという考えは妥当なものと思う。
- ・過去、総務省が全都道府県に計画を作って「徹底的なコストカット」「人員削減」を求めていたが、国はもう何も言わなくなっている。全国的にも「行政改革委員会」ではなく、「行政経営委員会」で質の改善に向けて話し合うなど、「質」の改善に向けて大きく流れが変わっている。

- ・一部の文章が非常に長く、何を伝えたいのか分からない。県民向けの平易な文章にしてほしい。

⇒ 読みにくい文章となっている箇所については、分かりやすい表現となるよう検討する。

### ○成果指標・活動指標等について

- ・主な課題はきちんと認識されていると思われるが、何を成果指標とするか、というところが弱く感じる。絶対値ではなく改善度合いを成果指標にするとか、全体で何件問題があって、そのうち何件が改善されたかなどを指標にすべきではないか。

⇒ 行政管理課で成果指標が正しいかどうかというレビューは行っているが、不十分になっているところはあるかもしれない。今回策定する新プログラムの中でしっかり検討したい。

### ○実施項目2「オープンデータ利活用に向けたデータの充実」

- ・取組の出だしが肝心。最初に「県庁のサイトにいろんなデータがある」と伝えながら、研究者とかNPOの方々がこのデータを活用して研究が促進されるよう、データの活用促進にむけた啓発までセットで行っていただきたい。序盤の数年間そういう取組を行わないと、後年のオープンデータの活動が縮小していくことが想像される。

### ○実施項目19「組織の見直し及び定員の適正な管理」

- ・定員については、ほとんどの自治体で「定員を維持する」「必要に応じて運用する」等のニュアンスに変わってきている。災害が起こったときに職員が不足して業務が回らないというのが一番不安なので、そうならないように検討してほしい。

以上